

# 心理講座より

「心理学講座」第13回配本附録

東京都神田局内神保町2の24 電車通り 株式会社 中山書店

## 人類学と心理学

### —故杉浦健一教授の思い出—



泉 靖一

接近された人を除くと、日本の文化人類学者でヴァントの影響を受けた人は少ない。この国における人類学に心理学をもちこんだのは、マリノフスキイの機能主義を組織的に研究されたのは、杉浦教授であつた。

教授は一九三八年四一年

人類学——とくに文化人類学は、その出発点において、未開人の生活様式を研究対象とした。研究者は、未開人と研究者自身の生活のちがいを説明するために、彼らの「心理」を考えざるをえなかつた。

進化主義者たちも、未開から文明社会への一連的進化の過程の裏づけとして、人間心理の一系性を前提としていたのである。

しかしながら、多くの日本文化人類学者は、ごく最近まで、いな、現在もなお、文化の形態や機態には興味を抱いても、それらと個人との関係、いいかえると理性的側面には、あまり関心をもたなかつた。そのなかでただ一人、心理学と人類学との関係を考え続けていたのは、故杉浦健一教授であった。だから教授の心理学にたいする闘争の歴史を明かにすることにより、日本の人類学者の心理学にたいする興味のあたを辿ることが可能たとえう。

大場千秋教授のように、心理学から文化人類学に

間ミクロネシアの現地研究に従事し、「南洋群島における土地制度」ほか、多くの労作を残しておられるが、なお大部分の資料は未発表のまま残っている。そのなかに、母系氏族社会における親族關係の心理にかんする分析や、文化変容の過程における反作用など、興味深い研究が残されている。

しかし、なんといつても、杉浦教授の最も力を注いで、理解に努力され、紹介に骨を折り、若い世代の指導に傾倒されたのは、戦中戦後に異常な发展をとげた、アメリカ人類学における心理学的側面であつた。

日本応用心理学大会 論文集

ご希望の方は、価五〇〇円(30円をそぞ)

中山書店にお申込みください。

つた。今でもありありと思いつくのは、昭和二十二年の冬ごろ、東大理学部の人類学教室の片隅に、綿の出たフトンを敷き、よれよれの丹前を軍服の上にはおって、四分の一に切ってキセルにつめた闇タバコをする。丹前を軍服の上にはおって、四分の一に切ってキセルにつめた闇タバコをすいながら、当時手に入つたあらゆる雑誌、書物をかたづけしから読みとばし、「文化と性格」にかんするアメリカ人類学界の過去十年にわたる業績を論じあつたことである。マーガレット・ミードの原始民族における性格形成の研究を、戰前に知つていただけのわれわれにとって、アメリカ人類学者の新フロイド的行き方や、ロールシャッハ・テスト、TATなど、プロジェクトメソードの広汎な適用は、確かに新鮮な印象を与えた。ドールプレイン人形遊びテストを、研究会で紹介されたときなどは、笑いの種にされたものである。しかし、杉浦教授は異常な努力の結果、これらの考え方や研究方法を、現地研究の上に移された。車力村・十和田村・西布村・大隈半島などの調査は、この立場から行われたものである。杉浦教授の、かかる戦後の文化人類学における心理学的研究は、ミクロネシアにおけるそれと同様、完全な姿で発

表される時を待たずに、突然、教授の死をもつて挫折してしまったのである。戰後の困難な時代に精神を傾け、肉体の苦痛をかい求めた杉浦教授に与えられたものは死であつた。

人間生活の諸様式である、文化と個人の関係は、心理学の研究対象であると同時に、人類学のそれでもある。おそらくは、人類学は文化を出発点として、心理学は個人から歩を進めて、——ちょうど閥門トンネルを下関と門司との双方から振りはじめように——一つの問題に向つて振りすすめゆくことが、近接諸科学の共同研究の真の行きかたであろう。その意味で、杉浦教授の死は、この国における人諸学と心理学との間の架橋を意味する。しかし、教授のミクロネシア研究の後に続くことは困難でも、戰後の諸研究を押しすすめ、展開しても、その上に新しい健物を築き上げようとする次の世代が、続々と現れつつある。この点、杉浦教授の遺志は生きている。わが国における人類学と心理学とのためにも心強いし

(東洋文化研究所)

教育  
大学  
博  
士

人間  
科学  
博  
士

小保内虎夫著

心  
理  
學

文  
學  
博  
士

小保内虎夫著

全  
訂  
新  
版

予定価格三〇〇円

【四月下旬刊行】

A5判  
上製函  
定価七〇〇円  
上質紙  
五五頁

心  
理  
學  
實  
驗  
入  
門

A5判  
上製函  
定価三五〇円  
上質紙  
二二頁

醫  
學  
博  
士

高  
嶺  
著

【全訂新版】  
A5判  
上製函  
定価三五〇円  
上質紙  
二二頁

原色版  
共  
上製函  
定価三五〇円  
上質紙  
二二頁

科  
學  
概  
論  
林  
高  
嶺  
著

【第4版出来】

A5判  
上製函  
定価七五〇円  
上質紙  
五五頁

（中島健  
蔵氏評）  
「物理的な世界から生物的世界をへて、意識を櫛としつつ人間の社会にはいりこんでいく。ことに意識の問題は、もつとも興味のある分野であって、本書においても、これが扇の要のよう、重要な位置をしめるものとなつてゐる。」（中島健

☆ ..... ☆ ..... ☆ ..... ☆ ..... ☆

## 心理学会の実情

☆ ..... ☆ ..... ☆ ..... ☆ ..... ☆

小保内虎夫

二、三年前のことであるが、某書店から、心理学叢書についての相談を受けたことがある。どうしたわけか、そのうちに主人が、実行をしぶりだした。そこで、わけを聞いたところ、実は、心理学界には派閥抗争が激しく、うかり手を出そうものなら、とでもない目にあうと忠告されたからだとのことであった。意外な評判もあるものだと、わたくしは驚いた次第であった。ところが、先月の毎日新聞に、心理学界の評判記が載つたが、そこでも同様な批評がなされていて、そつとしてみると、世間にはいや心理学者自身かも知れないが——心理学界を、そういうふうに見ている人が、案外に多いかも知れない。一体、どうしてそんなことになつたかと、わたくしは改めて考へてみた。

毎日新聞が、抗争の最も大きな例としてあげているのは、日本心理学会と日本応用心理学会との関係である。新聞によると、日本心理学会は、官学を中心として、知覚、行動、学習などのアカデミックな研究を主

教授は、戦前は別として、終戦後日本応用心理学会に影響を与えていない。この学会は、終戦後、渡辺徹教授やわたくしなどが世話人となって再発足し、その後、大勢の委員で、会を民主的に運営しているのである。

もちろん、委員のなかには、日本心理学会のあり方に批判的言葉を発する人がないではないが、そういうことは、日本心理学会のなかにあることだし、なにも日本応用心理学会委員に限つたことではない。両学会の実情をよく知らない人が、たまたま上げ、こういう学問的闘争の相違が、学会の対立となつて現われてくる、というのである。この見方は正しくないとと思う。両学会は、関心なり、目標なりを異にしていることは事実であるが、しかし、それは厳密なものではなければ、対立をひきおこす性質のものでもない。厳密な区別でないといふ意味は、両学会は、研究発表の点からみると、知覚を除けば、あまり差がないからである。

そうしてみると、両学会の関係は、研究関心よりも、むしろ幹部的人的構成ということに問題を含むわけなのである。この点に關して混線があり、実情を誤り伝える結果になつたものである。新聞によれば、千輪、淡路両氏の昔の対立が、今日、両学会対立の因をなしているという。これは事実に反する。千輪教授は、以前も現在も、日本心理学会に深くタッチしていない。淡路

新聞によれば、両学会の対立以外にも、心理学者間に派閥が多いとのことであるが、これも誤解と思う。心理学は、多くの研究領域を包含しているので、同一領域の人々が、グループを作るのは自然である。こういうことを派閥と呼ぶのは当らない。ただ、それが出でて結びつくので、その意味での派閥はあつたかも知れないが、しかし、それも派閥という程のものではない。

学説のことから考えられるが、これは日本では到るところに見られるもので、これが心理学界にはないとはいわないが、他の学界に比して激しいというようなことはないと思ふ。

筆説から来る対立もないことはないが、しかし、問題となるようなものではない。戦前には、高等學校の心理学を、ゲシタルト説で統治しようとする運動と、それを阻止する運動とが激突し、新聞沙汰になってしまったが、それでも、今は昔の語り草に過ぎない。もつともこういうことが、心理学者の派閥性を世人に印象づけているのなら、わたくしも当然、慶應の一人として、罪を學界に謝ななくてはならないが、ともかく、心理学界の内部だ、そんなに激しい対立、抗争があるとは、わたくしはどうしても感ぜられない。そうではないといふ張る人があるとすれば、おそらくその人は、自己を他にプロジェクトしているのである。

(東京教育大學教授・文學博士)

## シェイクスピアと犬

大山敏子

「ニイクスピアは犬がきらいだったらしい。なぜなら、ニイクスピアの翻読みると、いたるところに犬という語が使われているのだが、それが、どれも軽い。要とか、憎しみとかいうようなのをあらわすための比喩につかわれている。これは、ニイクスピアの表現の中に、じみでてくる彼の性格の一端である。このように説いたのは、スペードンという英國の文学者で、それは、今から約二十年ほど前のことであつた。

「ヴニニスの商人」の劇の中に出てくるニズヤーの高利貸、シャイヨックは、ニイクスピアの劇中人物の中でも、非常にわれわれのよく知っているものだが、このシャイヨックは、徹頭徹尾、犬の比喩で、その性格が描寫されている。犬によつてあらわれているのは、シャイヨックの殘忍な性格であり、英國人の、ユダヤ人に対する嫌悪、輕蔑の心である。

ニイクスピアの時代には、犬は愛玩用として、上流階級の人々に飼われていた。食事時にになると、これらの犬は、食卓のそばに来て、飼主の手をなめて、「犬」、「なめる」「キヤンティ」「ヘーフル」とか、「増しめ」とかいうようなのをあらわすための比喩につかわれている。これは、ニイクスピアの翻読みで、じみでてくる彼の性格の一端である。このように説いてきたのは、スペードンという英國の文学者で、それは、今から約二十年ほど前のことであつた。

「ニイクスピアは犬がきらいだったらしい」というよつて、一連の言葉のつながりがくりかえされてくる。そしてここにおいても、ニイクスピアの犬に対する嫌悪の情があらわれている。スペードンが読みた論議は、犬に親しげだけではなくて、ニイクスピアが使つてゐる言葉、殊にイメージ（形容的、比喩的表現）から、このようないた論議を重ねて、そこに入間ニイクスピアとこうものを再現しようとしたのである。スペードンは、ニイクスピアの全作品から、このような表現をとり出して、その数をさしらべ、これを批評的に集めて論議を立ててと試みた。

ニイクスピア研究においてばかりではなく、英文学研究において、このような方法は、全く新しいものとして、多くの反響をよび起した。ある批評家は、このような方法を、「面白い張つらし」といふ。皮肉に笑つた。またある学者は、このような方法で文学を研究することは全く不可能であると反対した。しかし、ともかくも、この研究

が、現代のシェイクスピアの批評に、新たな方向と、可能性を示して、大きな影響を与えていることを、誰も否定することはできないのである。

英文学史上、最も偉大な作家であるシェイクスピアは、また、伝記的にはもつとも不可解な作家なのである。殊に彼の性格についての手がかりは、殆ど無にも等しい。われわれがたより得る唯一の手がかりは、その作品なのである。そして彼の全作品の全部のイメージを集めて、シェイクスピアに近づこうとしたスペードジョンの試みは、單に「暇つぶし」と一笑に附してしまうことはできぬ重要性を持っている。

しかし、われわれは、スペードジョンの、非常に明確で、論理的と思われる推論で、直ちにシェイクスピアの性格や、特徴をつかむことができるであろうか。ここに文学研究のむずかしい問題がある。まず、シェイクスピアの表現のどれが、そしてどの程度までが、彼個人のものであったかということが、中世から英國文芸復興期にわたりて、「犬」という語が、各作家によつてつかわれているのを調べてみると、われは、犬をきらつたのは、必ずしもシェイクスピアに限らないということを発見する。また、「犬」や「裏子」や「へつらい」の連想が、シェイクスピアの作品に、しばしひかりえされていることは確かであるが、ここからも、簡単にシェイクスピアの個性を割り出していくことができないくらい

い、当時の習慣とか、当時の観客たちの常識ということが考えられねばならない。

このように考えてゆくと、人間シェイクスピアというものは、仲々簡単にとらえることができない、ということが解つてくる。

そして、われわれにとつて、まず第一に重要なことは、このような方法でシェイクスピアという一人の人間を再創造してゆくこと

とよりは、むしろシェイクスピアの作家としての感覚や、精神が、どのように作品にあらわれ、そのような發展を示しているかを知ることなのである。エリザベス朝のロンドンに生活していた一市民としてのシ

イクスピアを知ることよりは、劇作家としての、芸術家としてのシェイクスピアの心をたどつてゆくことなのである。

もちろん、その場合にもシェイクスピアと犬という問題が、一つの鍵を与え、シェイクスピアが、どのように、「犬」という語をつかい、それがまたどのような場面に、どのような連想をもつて、つかわれているかということを知ることが、シェイクスピアの芸術的人間像をえがき出すために重要な手がかりである事は、いうまでもない。

(東京学芸大学助教授)

## 学校図書館の 基本図書として 農業のものは 本大系が初めて <生物学大系>の 農業版!

農場博士

野口彌吉 著者

編集

農業

説

大系

(全5巻)

A5判本クロス表紙上製  
原色共插圖平均三五〇葉  
一時拂特価各巻八〇〇円  
定価各巻八五〇円  
65円

農業上の諸生産物は、食糧、衣服、住居の材料など人間生活の日常をささえている根本であります。それにもかかわらず、全農業を体得づけた総合概説書は、今まで出版されたことがありません。これが教育にはかり知れぬ欠陥となつていて、痛感いたし、こにあえて本大系を刊行するに至りました。

本邦最初の基本図書として学校図書館はじめ、中学の職業科・理科・高校の職業・生物課程等の好適な常備書と信じ、おすすめ申し上げます。【内容見本送呈】

## 読者のページ

なっているが、むしろ重要な部門を重点的に深く掘り下げるべきではなかつたかと思う。

新潟市北多門町 学生 羽賀哲夫

心理学講座の完成が近づいたことを斯界のお喜びいたします。私は心理学関係の仕事をしておりますが、この種の全集、講座は他になく非常に有益です。ここで特にお願いしたいことは、アメリカ以外の各國の心理学の紹介です。実験心理学の癡祥地フランス、パロフ以後のソヴィエト心理学の活動状況と問題の傾向の紹介が欲しいと思います。

福島県労働部職業安定課公務員 松島信之

学校教育にたずさわる者として、児童の心理をつかむことに日夜苦心し、何か適当なものはないかといふう探してみたが、本講座は、あらゆる分野にわたって心理学的解説の手ほどきをしてくれ、私の要望を十分に満してくれた。

埼玉県比企郡明覚村 教師 岩野大三

よいよ本講座も佳境段階へと進んできましたが、心理学的資料を得るために種々の行動、表象、思考など基礎的実験法の論述にいまだ不足のおもむきがあるように思われます。また、編集の意図が広くというので無理はないが、各部門とも内容が浅く

## 心理学講座 第十四回内容

脳の形態と機能 関東大教授 内村祐之

百科辞典としても大変便利です。心理学専攻者にとっても、自分の研究分野以外に限界をひろげてくれる有益なものと思う。最後にぜひくわしい索引をつけて下さい。

大阪市天王寺区茶臼山町 教師 西本脩

### II 編集部より

寒さも漸くやわらぎ、快よい春風が街に流れ始めました。ここに予定どおり第十三回配本をおとどけ申上げます。

顧みますれば昨春発刊以来ここに一年有余、大過なく進行出来ましたことは、ひとえに諸先生方のご努力と読者の皆様のご支援並びに関係者一同の御協力の賜であります。編集部一同深く感謝いたしております。余すところあと二回の配本をもちまして来る五月全巻完成をいたす予定でござります。最後まで専門御支援下さいまことに重ねてお願い申上げます。

なお、かねて本講座に「文化人類学」の御寄稿をお願い申し上げておりました杉浦健一教授が、過般急逝されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

精神電流現象 (2) 関東大教授 宇留野藤雄

応用視知覚の問題 同 广島大教授 戸田正直

サバイネテックス 北大講師 多湖輝

意志の異常 同 広島大教授 高木質一

精神電流現象 (2) 関東大教授 宇留野藤雄

精神電流現象 (2) 同 广島大教授 戸田正直

精神電流現象 (2) 同 広島大教授 高木質一

精神電流現象 (2) 同 广島大教授 戸田正直

精神電流現象 (2) 同 広島大教授 高木質一

精神電流現象 (2) 同 广島大教授 戸田正直

精神電流現象 (2) 同 広島大教授 高木質一

精神電流現象 (2) 同 广島大教授 戸田正直

精神電流現象 (2) 同 広島大教授 高木質一

精神電流現象 (2) 同 广島大教授 戸田正直